

施策No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	社会福祉課	主管課長名	田谷 賢一
1-4	施策名	地域福祉の推進	関係課	児童福祉課、健康推進課、高齢福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278	40,483	39,692	39,122	38,422
見込値										
						実績値				
見込値										
						実績値				
的		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		地域で互いに支えあう意識が高まり、積極的に福祉活動に参加している。	①地域福祉活動を行っている市民の割合	%		目標値	28.0	28.5	29.0	29.5
実績値						22.1	22.4	25.3	20.6	18.6
②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数			件		目標値	100	110	120	130	140
					実績値	86	86	85	97	114
③社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数			人	目標値	759	759	759	759	759	
	実績値				576	658	646	572	539	
	目標値									
				実績値						
成果指標設定の考え方	○地域で支え合いの意識を高め、福祉活動を実践することによって、アンケートによる①地域福祉活動を行っている市民の割合、②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数③社会福祉協議会にボランティア登録している人数									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①地域福祉活動を行っている市民の割合は、市民アンケート「継続的に行う」、「たまに行っている」より求める。②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、高齢福祉課で管理する高齢者見守りネットワーク事業所登録数より求める。③社会福祉協議会にボランティア登録している人の数は、社会福祉協議会にボランティア保険に加入するために登録をしている人の数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
背景・要因	<p>○地域福祉活動を行っている市民の割合(「継続して行っている」「たまに行っている」)は、前年度20.6%であり、令和3年度については18.6%と減少している。「あまり行っていない」「行ったことはない」と回答した市民の割合は、令和2年度は77.5%、令和3年度は79.9%と増加している。</p> <p>○高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、令和2年度97件、令和3年度114件と増加している。</p> <p>○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和2年度は572人、令和3年度は539人と減少している。</p> <p>○社会福祉協議会ボランティア登録数は減少傾向にあり、地域活動を行っている市民の割合は減少しているが、高齢者見守りネットワーク事業は増加傾向にあるため横ばいと判断した。</p>	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景・要因	<p>○地域福祉活動を行っている市民の割合は、令和3年度は目標値30.0%に対して実績値18.6%と下回った。</p> <p>○高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、令和3年度は目標値140件に対して実績値114件と下回った。</p> <p>○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和3年度は目標値759人に対して実績値539人と下回った。</p> <p>○活動・ボランティアなどを行っている方の高齢化、新型コロナウイルス感染症による活動の制限などがあり目標値を全て下回ったと考えられる。</p>	

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <p>民生委員児童委員協議会助成事業においては、地域社会の福祉増進を目的とした活動の中で、高齢者に関すること、障がい者に関すること、子どもに関すること、生活困窮者等に関することなどの相談及び支援を行った。岩瀬地区44名・大和地区16名・真壁地区40名計100名による訪問活動、見守り活動をしている。</p> <p>地域福祉計画においては、第2次地域福祉計画を見直し、市民・地域・行政の協働のもとに、誰もが住みよい、心と心の通い合う地域共生社会の実現を目的とし、令和4年から令和8年度までの第3次地域福祉計画を策定をした。</p>	<p>民生委員児童委員協議会においては、令和元年度の一斉改選後、半数の地区が新たな民生委員児童委員として委嘱を受けましたが、新型コロナウイルスの影響により、事業や研修などが中止・延期等になったため、民生委員児童委員同士の交流・意見交換の機会が減少している状況が続いています。今後、ワクチン接種の促進により新型コロナウイルスの状況改善が見られることから、県の研修への参加や単位民児協での全体研修などを開催することを検討しています。また、令和4年度に一斉改選があるため、地域によっては後継者対策が課題となっている状況の中、地域の実情に応じた人選をしていただけるよう早めに地区への推薦依頼をしていく。</p> <p>地域福祉計画を推進するにあたり、関係各課と相互の連携・調整を図り、全庁的な体制のもと計画を進めていく。</p>